



WAM助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

令和5年度 WAM 助成 成果報告書

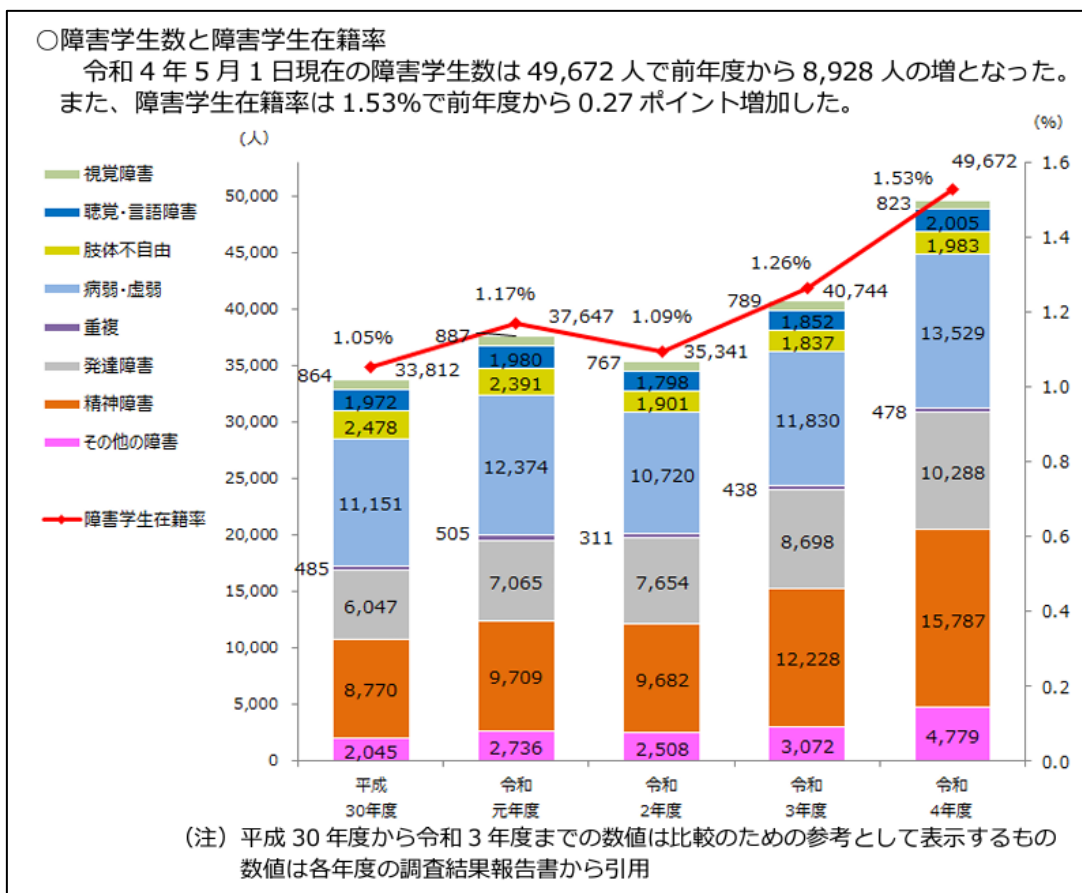
NPO 法人多様な学生の支援を本気で考える会

目次

1. はじめに
2. 【障害を抱える大学生向けの就職支援】について
3. 【発達障害、メンタルヘルス不調を抱える専門学校生向けの
相談支援事業】について
4. 【中途退学者向けの進路相談事業】について
5. 【学生、中途退学者の職場実習調整事業】について
6. 【福祉制度の説明会開催事業】【障害者雇用の説明会開催事
業】について
7. まとめ

1. はじめに

かねてより発達障害が疑われる大学生、専門学校生が増加していることが指摘されており、学生の支援の必要性についてはこれまで指摘されてきました。



*JASSO（独立行政法人日本学生支援機構） 令和4年度（2022年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査から抜粋

そうした流れの中で、2017年の「働き方改革実行計画」により、大学生・専門学校生に対しては卒業年度に限定されるものの障害者福祉サービスを利用できるようになりました。

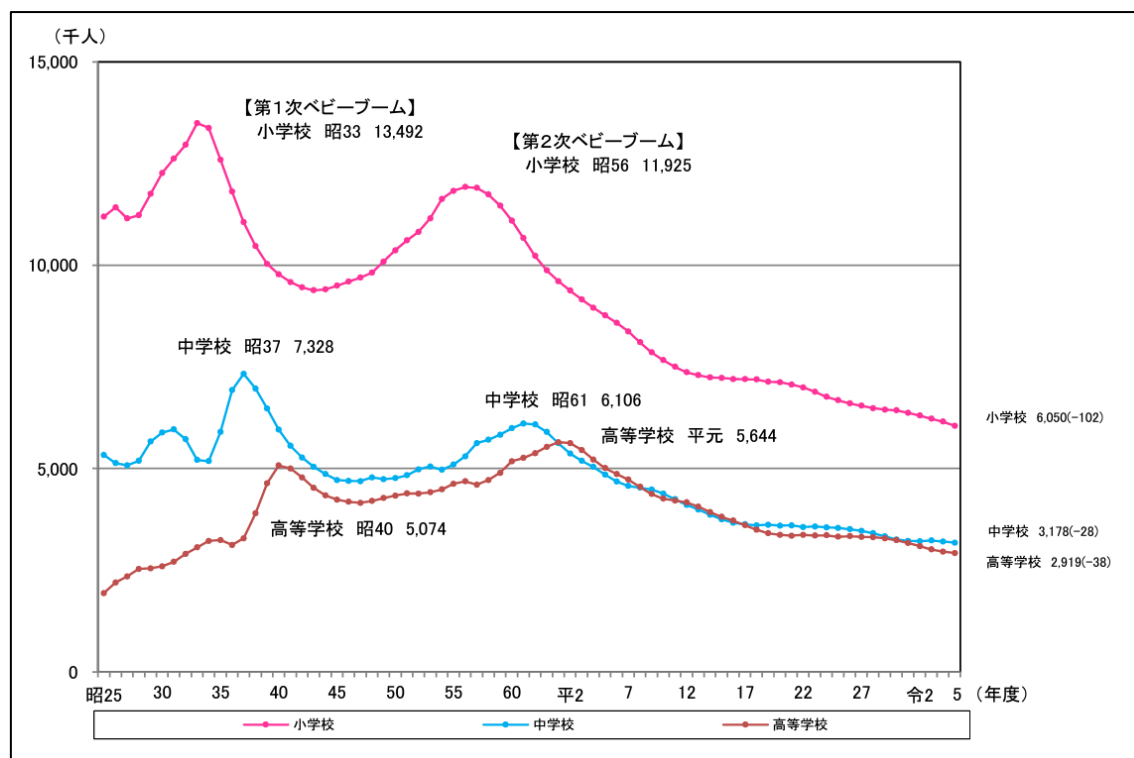
これまでは、18歳以下を対象とした児童福祉サービス、学業を終了して就労段階にある方を対象とした障害者福祉サービスでは、専門学校生・大学生を支援することが出来ず完全な制度の狭間となっていました。
そういった中で、卒業年度の学生が利用できるようになったことはとても嬉しい変更でした。

その一方で、大学生、専門学校生の実情については様々な問題を抱えていることがこれまで明らかになっています。

例えば、障害を抱える大学生が障害者雇用で進めようと思っても大学のキャリアセンターで十分な支援を受けられなかったり、卒業年度の学生の福祉利用の判断が自治体に委ねられていて自治体によっては利用が難しい地域があったりと十分なサポートが受けられない状況が見られています。

専門学校ではスクールカウンセラーが設置されている学校も少なく、学生が精神的な不調を抱えていても相談する先がなく、担任の先生と一緒に困ってしまう状況が見られています。

このように様々な問題を抱えている一方で、子供の数が少なくなり、学生の確保が難しくなっている大学・専門学校では、学生数の減少に伴い予算確保が難しくなり、新たな部署を創設することや専門的な支援職員を配置することが難しく、現場の教職員の皆さんは専門職員の配置を願いながらも中々進まないことに苦しんでいる様子が見受けられていました。



* 文部科学省 令和5年度学校基本統計（学校基本調査の結果）から抜粋

更に悩ましいことに、年々大学内でのカウンセリングの相談件数が増加したり、専門学校・大学で知的障害・発達障害の診断を受ける学生が増加したりするなど、支援対象者の増加や支援の複雑化なども生じるなど、難しい状況にな

ってきています。

そうした状況の中、大学・専門学校で支援を充実させることは困難であること、制度の狭間で支援を受けるには壁があることなどから、行政の事業化を目指して、大学生・専門学校生の支援事業を実施することにしました。

2. 【障害を抱える大学生向けの就職支援】について

For university student
大学生の方へ

マイノリティな生徒と明るい未来へ。

相談室 かくかくしかじか寺等は、
生徒さんのあらゆる不安を明るい未来へ導く存在ですので、
お気軽にご相談ください。

こんなお悩み抱えていませんか？
大学ではカウンセラーが在籍していることが少なく、困った時に相談できないこともあるかもしれません。
一度私たちに相談してみませんか？

POINT 01	POINT 02	POINT 03	POINT 04
就職活動について ✔ 就職活動しなくてはならないのに 応募しないままです ✔ 企業で実施して中絶から戻らない ✔ 何から始めたら良いかわからない	自分の適性について ✔ 職業実習をして自分に何が 向いているかわからない ✔ 自分の好きな職業の方が あっているか相談したい	障害者雇用について ✔ 新卒の就職と障害者の就職は 何が違うかわからない ✔ 障害者雇用での応募方法を お聞かせください	発達障害や精神疾患 ✔ 自分は発達障害なんだろうか ✔ 自分の障害や病気について よく分からなくて相談したい ✔ 医療機関に行った方がいいか相談したい

Usage flow
利用の流れ

- 1 メール・LINEでの
お問い合わせ
- 2 担当者から折り返しの連絡
担当者が一人ずつ対応しているため、質問や
企業実習のための訪問などによりご連絡が
遅くなってしまう場合があります。
- 3 日程決め
メール、もしくはLINEで
ご相談日時の調整をお願いします。
- 4 ご相談
当日は建物に入らずにすぐあります。
1階エレベーター前のソファにてお待ちください。
お時間になりましたらお戻りください。

初回相談の方へ
ご本人が来られない場合はご家族や周りの方が
お出でいただくことも可能です。
相談されたこと、困っておられることなど
についてお話しし、情報のご提供や相談の方針
についてお話しします。ご希望、相談点などを
お気軽にお尋ねください。1回のみガイドン
ス、緊急対応的な相談にも応じております。

私たちの活動
NPO法人多様な学生の活躍を本気で考える会では、
制度の狭間において公的な支援を受けることができない
大学生や専門学校生を対象に、就労の相談支援や
職場実習の調整などの支援活動を行っています。

- 大学生の
就職相談
- 中途退学者
進路相談
- 専門学校生の
メンタルヘルス相談
- LD児童の
コンサルテーション

相談室かくかくしかじかでは、障害を抱える大学生の就職支援を実施していま
す。

本年度の相談件数

相談回 数	相談人 数	医療機関受診 者	内障害 者雇用	一般就 労	来年度以降卒業	未受 診
103回	25人	21人（相談時 点で診断が出 ていた学生 9 名）	6人	4人	5人	1人

本年度は次のような相談がありました。（個人が特定されないように一般化し
て記載しています。）

- ・ 障害を持っている私は新卒の就労でも働けるだろうか
- ・ 診断は出ていないけれど、アルバイト等がうまくいかずどうしたらよいか
- ・ 大学の単位習得がギリギリで、就職活動をする時間がない

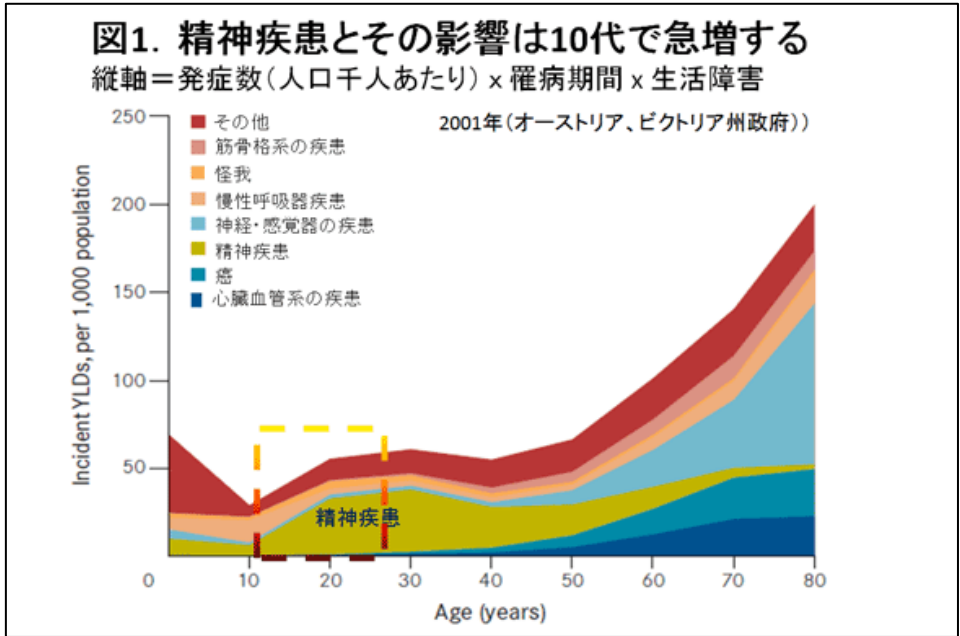
- ・就職活動をしているけれど、全て不採用で自信を無くしてしまった
 - ・障害者雇用で進めたいけれど、大学のキャリアセンターには障害者求人がない
- い
- ・支援を受けたいけれど、どこで支援を受けてよいか分からない
 - ・障害者雇用の給料では生活していけない、どうしたらよいか
 - ・保護者から大学まで入れたのだから一般で就職してほしいと言われているが、自分にはその力はないと思っていて困っている。
 - ・発達障害ではないかと思っているが、保護者が病院受診を許可してくれない
 - ・死にたくなる時があつて、すごく辛い。病院に行きたいが両親が精神科で嫌な経験をしていて受診させてくれない。
 - ・家が貧しくアルバイトをして兄弟の食費を稼いでこないといけない。それにより単位を取るのが厳しい。

相談支援の結果は次のようになっています。

- ・医療機関の受診により発達障害の診断が出て、障害者手帳を取得する
- ・自分の得意不得意が整理され、就職の方向性が決まる
- ・障害年金について知り、社労士に障害年金の申請を依頼
- ・卒業後の支援機関とつながる
- ・職場実習に繋がり、今までのアルバイトのうまくいかなかったところ、うまくいくために必要なことが分かる
- ・大学の卒業を優先する
- ・服薬による治療で、状態がかなり安定する
- ・障害者雇用で就職が決まった
- ・新卒の就職で一度頑張ってみて、うまくいかなかったときに障害者雇用も検討することにした

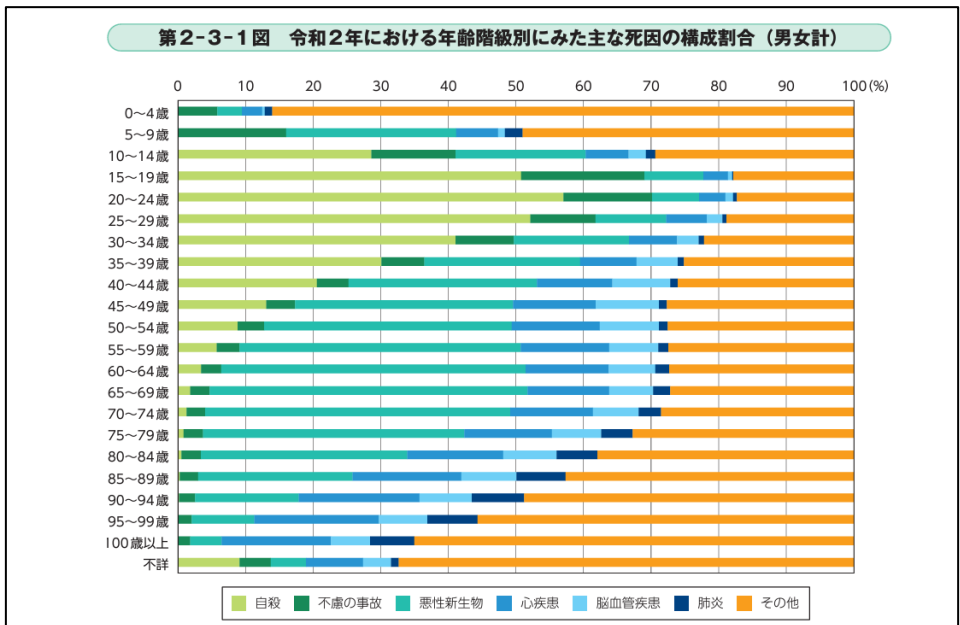
相談支援を行う中で次のような課題が見られました。

- ・ご本人がどれだけ状態が悪くても、保護者の障害に対する思いや宗教観から医療機関の受診に繋がらない、両親が保険証を出してくれない



* 学校保健 (<https://www.gakkohoken.jp/special/archives/220>) から抜粋

- ・ 私立大学で奨学金の額が大きい等の金銭的な事情により、保護者が障害者雇用の給料を許容できない
- ・ 学生の状態が悪く、緊急入院が必要な状態でも保護者が精神科に同行してくれず、自殺未遂に至ってしまう



* 厚生労働省 令和2年における年齢階級別の死因構成割合

このように学生本人の支援だけでは解決できない問題が多くみられていました。札幌近郊の大学では学力がなくても入学できる大学が増えており、経済的な問題があるものの大学に入学するケース、主体的な対処能力に問題を抱えていながら進学してきたケースなども見られており、ご家族や周囲の援助資源の必要性が増している状況にありました。

3. 【発達障害、メンタルヘルス不調を抱える専門学校生向けの相談支援事業】について

For vocational school student
専門学校の方へ

あなたの未来とキャリアの相談室
相談室 カクカクシカジカは、学生の皆さんが悩んでいることや、困っていることを一緒に解消していきたいと思っておりますので、お気軽にご相談ください。

こんなお悩み抱えていませんか？
専門学校ではカウンセラーが在籍していることが少なく、雨った時に相談できないこともあるかもしれません。一度私たちに相談してみませんか？

POINT 01	POINT 02	POINT 03	POINT 04
実習が上手く行かない ✓ 資格取得のための実習がうまくいっていない ✓ 実習で失敗して単位が取れないことが確定してしまった	精神的に不安定で相談したい ✓ 気分が沈みやすい ✓ 自傷行為をやめられない ✓ 家族関係、異性関係でトラブルが不安定になってしまおう	授業についていけない ✓ 授業についていけないのが大変 ✓ このままのコースで就職する自信がない ✓ 専攻は決めて出来た	コミュニケーションがうまくできない ✓ 同僚とうまく話せない ✓ 先輩先でトラブルが多い ✓ 合わせてくれる相手とずっと一緒にいる

私たちの活動
NPO法人多様な学生の活躍を本気で考える会では、制度の隙間にあって公的な支援を受けられないが、大学生や専門学校生を対象に、個別の相談支援や職場実習の調整などの支援活動を行っています。

- 専門学校生のメンタルヘルス相談
- 中途退学者 進路相談
- LD児童のコンサルテーション
- 大学生の就職相談

Usage flow 利用の流れ

- 1 メール・LINEでのお問い合わせ
- 2 担当者から折り返しの連絡
担当者の一人でお対応しているため、業務や企業実習のための勤務などによりご連絡が遅くなってしまう場合があります。
- 3 日程決め
メール、もしくはLINEでご相談日時の調整をお願いします。
- 4 ご相談
当日は建物に入らずにすぐにあります。1階エントランスのソファにてお待ちください。お時間になりましたらお迎えに上がります。

初回相談の方へ
ご本人が来られない場合はご家族や周りの方がお出でいただくことも可能です。相談されたいこと、困っておられることなどについて話し合います。ご希望、疑問点などをお気軽にお尋ねください。1回のみガイダンス的、緊急対応的な相談にも応じております。

相談室かくかくしかじかでは、専門学校生のメンタルヘルス等についての相談支援を行っています。

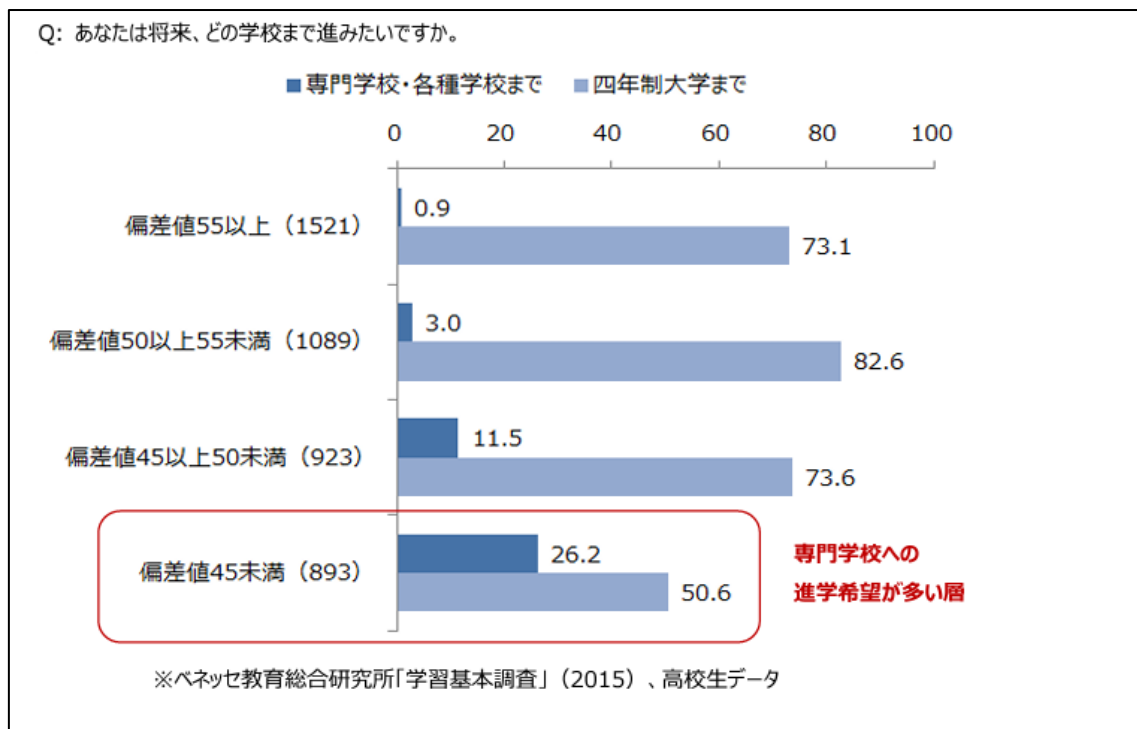
本年度の相談結果

相談回数	相談人数	医療機関 関係げた数	カウンセリ ング、相談機関紹 介	福祉利用	どこにもつな げなかった
107 回	44 名	38 件	15 件	8 件	1 件

本年度は次のような相談がありました。(個人が特定されないように一般化して記載しています。)

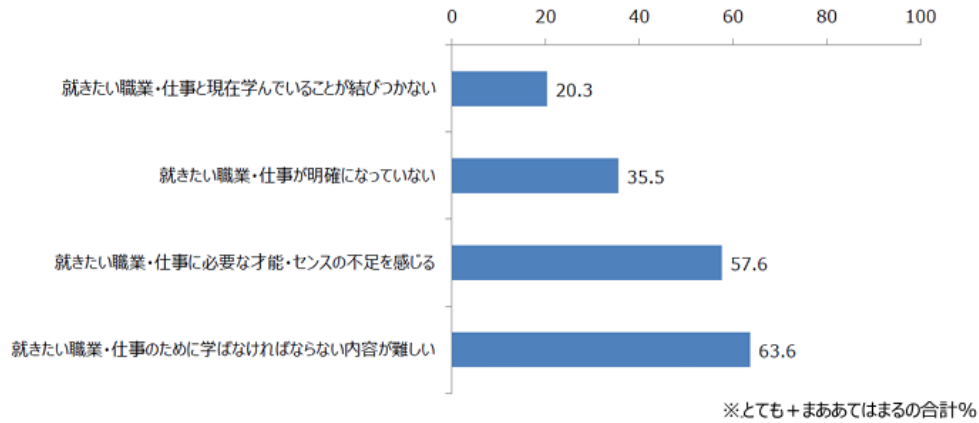
- ・精神的に不調で学校に登校できない
- ・資格取得のための実習がうまくいかない
- ・専門学校の資格を取得できず、卒業時に希望の進路に就職できない

- ・保護者の家賃支払いが滞納し、生活費が賄えない
- ・貧困で食べるものが全くない
- ・時々気分が落ち込んで、そのまま回復するまで1か月以上かかってしまうことがある
- ・友達にいじられて辛い
- ・在学する学校と自分のやりたいことが合っていない
- ・卒業を控えて進路が決まっておらず困っている
- ・保護者が医療機関受診に反対していて病院に行けない
- ・発達障害に対して保護者が否定的。保護者からふつうだと言われているが、実際にはかなり困っている。
- ・人のいるところで緊張して、上手に息が吸えなくなる
- ・特定の人が同じ空間にいるのが嫌で、学校に行けない
- ・周囲のレベルが低くて自分のレベルと合わない



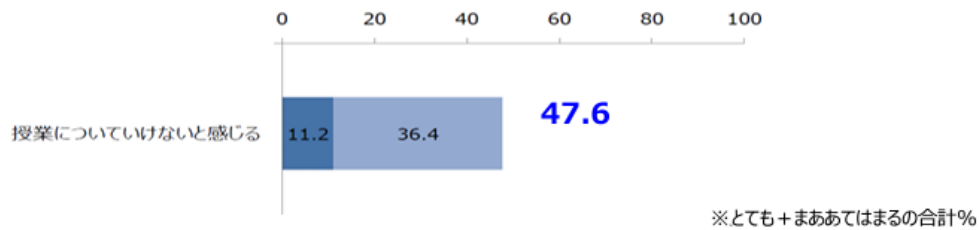
● 進学後の学びや進路に関する悩み

Q: 専門学校での学びや進路に関する悩みについてお聞きします。次のようなことはどれくらいあてはまりますか。



● (進学後)「授業についていけない」の比率

Q: これまでの学生生活を振り返って、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。



*ベネッセ (<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5200>) 専門学校生の学習と生活に関する実態調査より抜粋

相談支援の結果は次のようになっています。

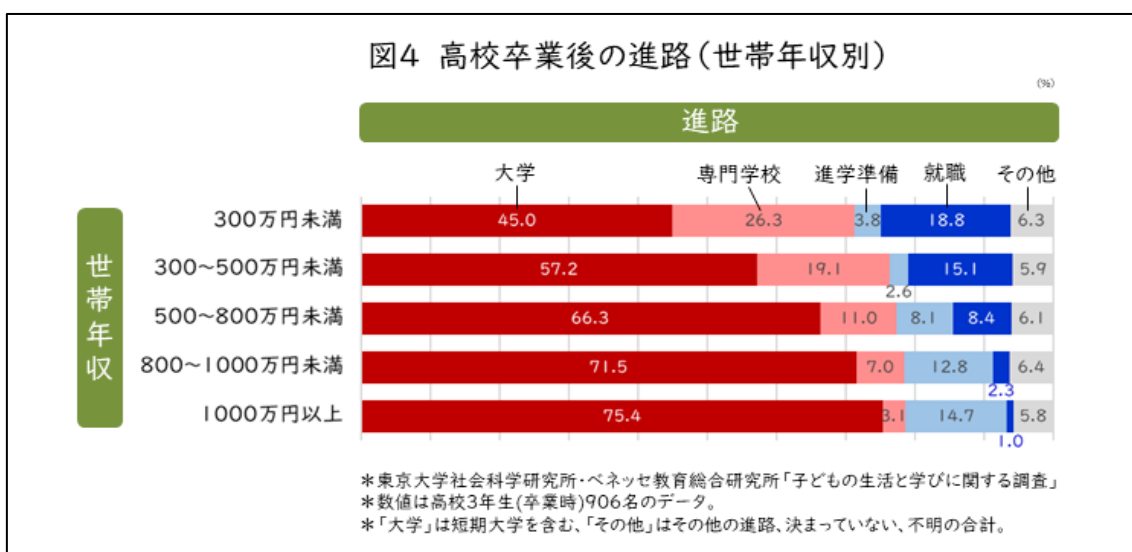
- ・医療機関への紹介
- ・社会福祉協議会に連絡を取り、教育貸付制度を利用
- ・対人関係の調整により、不適応状況が改善
- ・保護者面談を実施し、発達障害・精神疾患について情報提供
- ・暗示を用いて緊張を緩和
- ・進路についての相談

相談支援を行う中で次のような課題が見られました。

- ・特定の専門学校からは問い合わせがあるものの、顔見知りでない専門学校とは連携がうまく図れない

- ・学内では出席していれば卒業自体はできてしまうため、卒業段階まで学生が困らずに相談に繋がられない。卒業ギリギリになっての相談では、状態像がすぐに掴めず在学中に支援機関に繋げることが難しい
- ・貧困の問題も抱えており、体調が悪くても学生が働かなくてはいけない状況が見られる
- ・生活保護家庭で、学校卒業後世帯分離する必要があり、自立して働かなくてはいけない一方ですぐにフルタイムで働くことができない学生が見られる。

特に専門学校については経済的な問題も絡みやすく、介入の必要性を強く感じました。



*所得が低いほど専門学校を進路として選択しやすくなるという結果が得られている。

4. 【中途退学者向けの進路相談事業】について

相談室かくかくしかじかでは、中途退学者の進路等についての相談支援を行っています。

本年度の相談結果

相談回数	相談人数	内福祉利用	就職	進学、転学、在学	どこにもつなげなかった
43回	16名	3名	10名	2名	1名

本年度は次のような相談がありました。（個人が特定されないように一般化して記載しています。）

- ・中退を考えているが、本当に中退してよいだろうか
- ・金銭的な問題で中退をした。今借金がありどうしたらよいか
- ・家庭の経済状況の悪化により専門学校に在籍できなくなった。今後のことについて相談したい
- ・アルバイトをしているが、このままの生活では将来が不安。どうしたらよいか
- ・中退して働いたけれど、自分にはこの働き方は出来ないと痛感した。それについて相談したい
- ・専門学校で資格取得できずに中退を選んだ。しかし今後どうしてよいかわからない。

相談支援の結果は次のようになっています。

- ・法テラスを用いた債務整理のために弁護士を紹介
- ・中退する前にその後の準備を行う
- ・障害者雇用としての職場実習を体験
- ・福祉事業所の見学同行

相談支援を行う中で次のような課題が見られました。

- ・情報の周知が難しく、届けたい層に情報が届かず、相談に繋がらない。
- ・今後国庫事業化していく場合に、債務整理など弁護士関連の問題に対処できる支援者が必要となる
- ・経済的な問題を抱えている方の就職支援、訓練、補助金についての知識が必要。

引きこもり状態にある方からの問い合わせはなく、若者サポートステーションへの相談とは異なる認識で相談してきているのかもしれませんが。

5. 【学生、中途退学者の職場実習調整事業】について
相談室かくかくしかじかでは、職場実習の調整事業を行っています。

本年度の実習結果

実習件数	人数
17回	15名

実習場所等については、掲載許可のあった実習場所のみとなります。





実習内容

・自動車の整備、ピッキング、建築、建築設計、食肉加工、弁当工場、テレワーク事務、スーパー、介護補助、福祉事業

実習を行った感想

・この仕事なら自分もできると思った。これまでやってきた並行作業は自分には向いていなかったのだと分かった。

・事務作業はルールやマナーなども必要で、自分で確認したり聞きに行く難しさも感じた。こういった作業よりも、品出しするなどの仕事の方が自分に向いていると思った。

・介護の補助の現場では、優しく教えてくれてとても仕事がしやすかった。こういう所もあるんだと思った。でも障害者求人だと給料が低くてどうしようかと思う。

・ピッキングではスピードなども問題なく取り組めた。途中で誰かから声をかけられたり、新しい仕事が舞い込んでこないため仕事に集中しやすい。

・建築の現場は朝が早いためそれが自分には大変だと感じた。

・デザイン設計の仕事はとても難しく、突き詰めていく必要があるのだと感じた。自分がそこまでの思いがあるのか今一度考えなおしたい。

6. 【福祉制度の説明会開催事業】【障害者雇用の説明会開催事業】について

9月以降に全部で12回の説明会を開催いたしました。専門学校や大学からお声がけいただき、お伺いしての開催する形が6件あり、当初予定していた開催回数を大幅に上回る開催となりました。

本年度の説明会

実施日	開催場所	人数	種別
9月22日	A 専門学校	20名	障害者雇用の説明会開催事業
10月3日	札幌国際大学	9名	福祉制度の説明会開催事業
10月5日	B 専門学校	63名	福祉制度の説明会開催事業
10月8日	北海学園大学	4名	福祉制度の説明会開催事業
12月8日	札幌国際大学	6名	障害者雇用の説明会開催事業
12月9日	北海学園大学	5名	福祉制度の説明会開催事業
12月27日	A 専門学校	18名	障害者雇用の説明会開催事業
1月19日	C 専門学校	4名	障害者雇用の説明会開催事業
2月10日	オンライン開催	15名	福祉制度の説明会開催事業、障害者雇用の説明会開催事業
3月16日	北海学園大学	2名	福祉制度の説明会開催事業

説明会では様々なご感想をいただきました。

- ・どんな要素があると相談したほうが良いのか、相談したほうが良い理由、相談しなかった際のデメリットを教えてもらったのがわかりやすくてよかったです。
- ・支援制度の詳細をくまなく知ることが出来たのでとても利益になる話でした。

- ・卒業後の相談先を知れた事が良かったです。今回 3 つのセミナーに参加しましたが、とても為になりました。ありがとうございました。
- ・卒業後の相談先と特徴を知ることができてよかった。選択肢が自分の中で増えたため、「なんとかなるかも」という安心感が少し得られた。
- ・自分は来年度で大学 4 年になるんですけど、就職は別に期限があるわけではなく、卒業後からでも全然遅くないし、焦る必要がなくて、実際に社会経験が少なくても、そこからアルバイトをして経験を積んだりとか、色々なやり方があるので、そう考えてたら、少しでも気持ちは軽くなったかなと思います。

10月8日にNPO 法人多様な学生の支援を本気で考える会により開催されました University Think2023 セミナーにおいて、さっぽろレインボープライドの満島てる子様による「LGBTQの世界を知る」の講話が行われました。本年度は北海学園大学において「メンタルヘルスがちょっと心配な方向けセミナー」も開催予定書かとも思ったら、ちょっと気になります。あなたのためのセミナー」に続き、3 回目の実施となりました。当日は性的なマイノリティの興味のある学生や教員関係者が参加し、多くの質問が飛び交う活発なセミナーとなりました。講演の前半では、LGBTQ に関する相談件数が年々増加していることや、悩みを抱える当事者たちの半数以上がカミングアウトしないまま過ごしている実態などについてお話いただきました。後半は本自体には差別が存在しないことも、課外活動での種別や入部に当たっての差別や課題が存在していること、当事者が受けているいじめの12%は教員が関係しているものであることなど、学校側が抱える課題についてもお話いただきました。参加した学生の皆さんは、身近な人たちを思い浮かべながら実態について考えたり、社会的な視点から質問がなされたりする姿も、様々な学びになりました。また教員関係者からは、個別の対応について、用意すべきフレームワークなどについての質問もなされ、学校と学生の両方にとって考える貴重な機会となった様子でした。

多様な学生の支援を考えるセミナー開催

さっぽろレインボープライド 満島てる子氏



10/8 のセミナーでは **LGBTQ** に類する学生からのニーズもあり、就職の相談方法などについてもご教示いただきました。学生から以下のような感想がありました。

- ・カミングアウトの心理的負担についてと、その時期や条件などについて考慮しなければいけないものについて参考になった。
- ・進路の問題・課題の大きさについて分かった。

このように反響が大きかったこともあり、**2024** 年度も継続して【福祉制度の説明会開催事業】【障害者雇用の説明会開催事業】を実施する予定で計画しています。

その一方で保護者への周知には課題を抱えている所です。その対策として、**instagram** による企画での露出、**YouTube** による一般的な情報の提供を検討している所です。

7. まとめ

2023年度はWAMネットに助成いただき、様々な取り組みを行うことができました。本助成に関わり、手続きなどのサポートをして下さいましたWAMネット助成金窓口のご担当者様に厚く感謝申し上げます。

その一方で、本事業を行政の事業化することは叶っておらず、引き続き実績を残していくことが必要となっています。今年度、来年度と積み重ねていく中で国庫事業化を図っていきたいと改めて考えておりますので、連携事業先の皆様には引き続きご協力を賜れば幸いです。

また本報告書をご覧になった学生や保護者の皆様には、お気軽に相談室かくかくしかじかにご利用いただきたく存じます。皆様にご利用いただき、お声を頂戴することで本事業が広がっていくものと考えています。

最後に当法人の思いを述べさせていただきます。

現在大学、専門学校ではいわゆる『出口の支援である就職』だけでなく、『在学中の学習に関する支援』の必要性が増している状況を相談支援の中でまざまざと感じさせられています。

大学全入時代と言われる時代に入り、選ばなければ誰でも大学に入学することが可能になっています。また教育格差、経済格差を無くすために2025年度から一部の家庭で大学の学費が無償化されるなどの政策も実施される予定があり、より一層学生の進学ハードルが下がっていくものと考えられます。

そんな中で、現時点でも既に大学生・専門学校生から『計算が出来ない』『レポートが書けない』『勉強の仕方が分からない』『自分で考えて組み立てが出来ない』など、学習の躓きに関する様々な声が挙がっています。こういった状況が、より頻繁に生じてくることが考えられ、従来障害に対する配慮では各学校がカバーしきれなくなる未来が想定されています。

そうした学生の事情を鑑みるに、これまで本相談室で実施してきた就職やメンタルヘルスの支援に加え、『大学生・専門学校生が使える学習の援助資源としての福祉的な支援』が今後必要になるものと思われれます。

そうした仕組み作り、体制作りに皆様のご協力を賜れましたら幸いです。